

【講座名】

夏目漱石『それから』の世界

— 「新しい男」の誕生と恋の行方 —



誰か慌たいしく門前を馳けて行く足音がした時、代助の頭の中には、大きな組下駄が空から、ふらふらと下つてくる。けれども、その組下駄は、足音の遠退くに従つて、すうと頭から抜け出して消えて仕舞つた。さうして眼が覺めた。枕元を見ると、八重の襟が一輪堂の上に落ちてゐる。代助は、昨夜床の中で、此花の落ちる音を聞いた。彼の耳には、それが誰か秘を天井裏から投げつけた程に響いた。夜が更けて、四隣が静かな所爲かとも思つたが、念のため、右の手を心



「『三四郎』の主人公はあの通り単純であるが、此主人公はそれから後の男であるから此点に於ても、それからである」という予告文掲載の後、『それから』の新聞連載は始まりました。『それから』に描かれた、芥川龍之介世代の若者たちが惚れ込んだ「新しい男」とは、いったいどのような男だったのでしょうか。そして、その造形にはどのような時代状況が反映されているのでしょうか。本講座では、『それから』に描かれた、自らの鋭い感覚を誇る「新しい男」の誕生を、当時の時代状況などを踏まえて読み解き、漱石が構築した豊かな『それから』の小説世界の魅力を紹介していきたいと思います。

10:00~12:00	芥川龍之介世代の若者たちが惚れ込んだ「新しい男」
	特権化される「神経」・神経衰弱という文明の病
	代助の居場所と「家」・結婚をめぐる
	「恐れない女」の覚悟と「恐れる男」の覚悟
	三千代との恋は選ばれたものなのか
	『三四郎』『それから』『門』を貫く姦通というテーマ

開講日：2022年9月8日(木)
 時間：10:00~12:00
 受講料：無料
 募集人数：20名 一般対象(抽選)
 開催場所：豊田産業文化センター
 講師：山口比砂(一般学科 准教授)

共催：豊田市 後援：豊田市教育委員会